

令和6年度 第6回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和7年1月20日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子
大橋 信之、増田 裕久、梶梅 輝之、岡野 里香、阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行状況について（資料1 P 1 ～ 5）

令和7年1月9日、広島県は、令和6年第52週（12月23日～29日）の新型コロナウイルス感染症患者の報告数が東部保健所管内で注意報レベル（1医療機関当たり8人）を上回ったため、県内全域に「新型コロナ医療ひっ迫注意報」を発令した。

また、本市における新型コロナワクチンの令和6年11月末までの接種状況は、表1のとおり。

本市においては、現時点では注意報基準値を下回っているものの、昨年同様に今後の感染が懸念される（図1）ことから、引き続き、市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防策を徹底するよう市のホームページ・SNS等を通じて呼びかけていく。

表1 新型コロナワクチンの接種状況

区分	10月	11月
65歳以上	15,094人	30,691人
60歳～64歳※	18人	66人
合 計	15,112人	30,757人
	45,869人（接種率：14.19%）	

◎ 65歳以上の人口：323,266人

※ 心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能に障害者手帳1級程度の障害を持つ者が対象

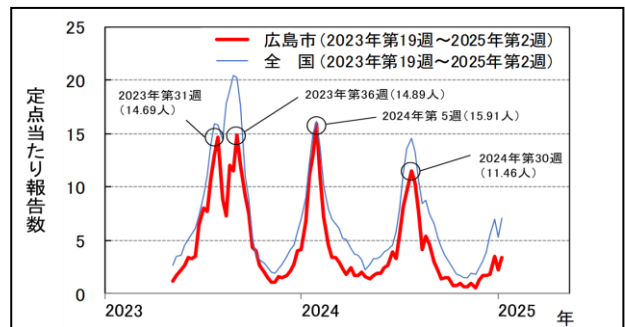


図1 新型コロナウイルス感染症の流行状況

（委員意見）

- ・ 感染予防策等の効果的な普及啓発について引き続き検討してほしい。
- ・ 今後の変異株の動向に注視する必要がある。

(2) インフルエンザの発生状況について（資料1 P 6 ～ 29）

令和6年12月26日、広島県は、令和6年第51週（12月16日～22日）のインフルエンザ患者の報告数が西部東、東部、北部、広島市及び福山市保健所管内で警報レベル（1医療機関当たり30人）を上回ったため、県内全域に「インフルエンザ警報」を発令した。

本市においては、第51週の患者報告数が警報レベルを上回った後さらに患者報告数は増加し、第52週（12月23日～29日）の報告数が定点当たり59.39人となるなど、現在の方法で統計を取り始めた平成11（1999）年以降で最多となった（図2）。

また、本市における季節性インフルエンザワクチンの令和6年11月末までの接種状況は、表2のとおり。

例年、学校が再開すると流行が拡大し、急激に患者が増加することから、新型コロナウイルス感染症と同様、引き続き、市民に対して効果的な感染予防策を呼びかけていく。

表2 インフルエンザワクチンの接種状況

区分	10月	11月
65歳以上	31,679人	96,579人
60歳～64歳※	13人	133人
合 計	31,692人	96,712人
	128,404人（接種率：39.72%）	

◎ 65歳以上の人口：323,266人

※ 心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能に障害者手帳1級程度の障害を持つ者が対象

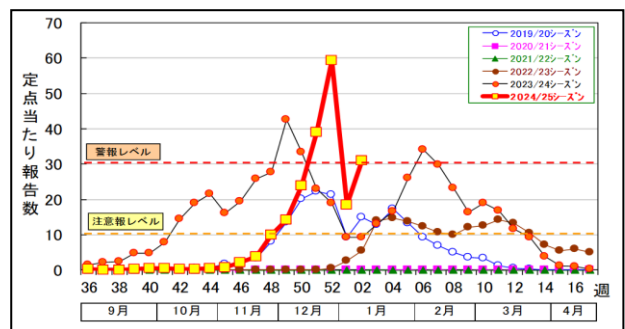


図2 インフルエンザの流行状況

（委員意見）

- ・ 小児のうち、就学前から学童にかけての年代において、脳炎症状を呈する例が多い。

(3) 带状疱疹ワクチンの定期接種化について（資料 1 P 30 ～ 67）

令和 6 年 12 月 18 日に開催された厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会において、令和 7 年 4 月 1 日から、带状疱疹を予防接種法上の B 類疾病に位置付け、同法に基づく定期接種として実施する方針が了承された。

定期接種の対象者及び接種方法は、表 3 のとおり。

表 3 带状疱疹ワクチンの接種対象者及び接種方法

定期接種の対象者		・ 65 歳の者※ ・ 60 歳以上 65 歳未満の者であって、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する者として省令で定める者 ※令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間は、経過措置として、当該年度に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳及び 100 歳になる者を対象とし、令和 7 年度に限り当該年度に 101 歳以上になる者も対象とする。	
接種方法	区分	組み換えワクチン	生ワクチン
	製品名	シングリックス (グラクソ・スミスクライン(株))	生水痘ワクチン「ビケン」 (阪大微生物研究会)
	接種回数	2 回（筋注）	1 回（皮下注）
	接種間隔	1 回目接種から原則 2 か月以上の間隔をおき、2 回目の接種を行う。	-
	その他	・ 2 種類のワクチンの交接種は不可 ・ 既に一部の接種を任意接種として行っている場合は、残りの接種を定期接種として実施	

今後、国は、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会を経て、政省令改正等を行った上で、令和 7 年 4 月 1 日から施行する予定としている。

本市としては、定期接種化に向けて必要となる準備等を進めるとともに、対象者及び医療機関への周知を図る等、円滑な制度実施を行っていく。

（委員意見）

- ・ 自己負担額等が決まり次第、速やかに示していただきたい。

(4) 麻しん患者発生に伴う注意喚起について（資料 1 P 68 ～ 76）

京都市保健所管内において「麻しん」の感染が確認された患者が、感染可能期間に本市内の施設を利用していたことが判明し、注意喚起のため 12 月 20 日付けで広報を行った。

広報資料では、患者が利用した時間帯に以下の施設を利用した者は、3 週間は体調に注意するとともに、発熱、発疹等、麻しんを疑う症状が現れた場合、速やかに医療機関を受診するよう呼び掛けた。また、受診する際には、医療機関への事前連絡、マスク着用の徹底、公共交通機関の利用を避けること等について注意喚起を行った。

さらに、患者が利用した施設について調査を行い、特定できた接触者について 3 週間の健康観察を実施したところ、発症した者は確認されず、新たな患者の発生には至らなかった。

本市としては、引き続き今後の発生動向について注視していくとともに、市民に対し、引き続きホームページ等を活用し、感染予防対策の周知徹底を行うこととする。

2 12月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和6年12月分	令和7年1月分
		報告日 12/2～12/29	報告日 12/30～1/14 現在
2類	結核	11人 (結核 5人, 潜在性結核 6人)	2人 (結核 2人, 潜在性結核 0人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人(12/2)	
4類	つつが虫病	1人(12/26)	
	デング熱		1人(1/8)
5類	アメーバ赤痢	1人(12/9)	
	急性脳炎	5人(1人(12/10), 2人(12/16), 1人(12/20), 1人(12/26))	1人(1/7)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2人(12/9)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(12/11)	2人(1人(1/6), 1人(1/7))
	後天性免疫不全症候群	1人(12/13)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	7人(2人(12/4), 1人(12/12), 1人(12/16), 1人(12/20), 2人(12/27))	3人(1人(1/6), 1人(1/10), 1人(1/14))
	水痘（入院例に限る。）	1人(12/5)	
	梅毒	7人(1人(12/3), 1人(12/9), 2人(12/10), 1人(12/14), 1人(12/17), 1人(12/20))	1人(1/8)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(12/18)	
	百日咳	12人(1人(12/2), 1人(12/5), 3人(12/9), 1人(12/11), 1人(12/16), 1人(12/17), 2人(12/20), 1人(12/27), 1人(12/28))	2人(1人(1/6), 1人(1/7))

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和7年3月17日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：12月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は6,213人で、前月比3.72と大きく増加した。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は大きく増加、水痘は増加、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はほぼ横ばい、流行性角結膜炎、マイコプラズマ肺炎はやや減少、手足口病は大きく減少した。

(2) 特記事項

- インフルエンザは、第51週(12月16日～22日)に警報レベル(定点当たり30人)を上回り、第52週(12月23日～29日)には、1999年の感染症法施行以降で最多となる定点当たり59.39人の報告があった(図1)。また、県内では、12月26日にインフルエンザ警報が発令された。手洗いの励行、咳エチケットなど感染予防対策を徹底することが重要である。なお、市内2か所の協力医療機関による迅速診断キットの検査結果では、今シーズンはA型が3,594人、B型が0人とA型が100%を占めている(1月12日現在)。
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、11月下旬から増加傾向であり、第2週(1月6日～12日)に定点当たり3.42人の報告があった(図2)。また、医療施設での集団発生も増加している。県内では第52週に東部保健所管内で医療ひっ迫注意報開始基準値(定点当たり8人)以上となったため、広島県は1月9日、県内に「新型コロナ医療ひっ迫注意報」を発令した。手洗い、換気、咳エチケットなど感染予防対策を徹底することが重要である。

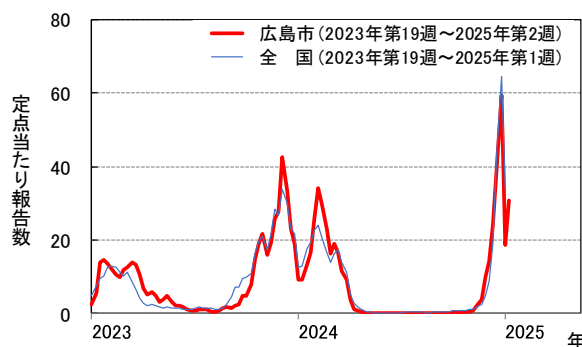


図1 インフルエンザの流行状況

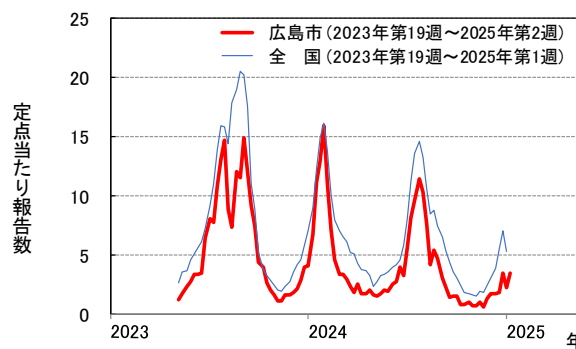


図2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況

- マイコプラズマ肺炎は、多い状況が続いており、第2週に定点当たり2.33人の報告があった。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策が重要である。
- 百日咳は、12月に12件の報告があり、2024年累計報告数は44件(速報値)となった。2025年は第2週までに3件報告されている。1歳以下の乳児、特に生後6か月以下では重症化リスクが高く、注意が必要である。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年累計報告数は19件(速報値)と、1999年の感染症法施行以降の調査において、2019年(10件)を上回り最多となった。2025年は第2週までに2件報告されている。全国の2024年累計報告数も1,888件(速報値)と、2023年(939件)を上回り最多となった。
- 急性脳炎は12月に5件の報告があり、増加傾向である。

(3) 12月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核11件(患者:5件、潜在性結核:6件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：つつが虫病 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件、急性脳炎 5件、クロイツフェルト・ヤコブ病 2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 7件、水痘(入院例に限る。) 1件、梅毒 7件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件、百日咳 12件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)・・・【流行始まり】

インフルエンザ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎・・・【流行中】

急性脳炎、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、百日咳・・・発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

12 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1) 2009 型	2024 年 11 月	1 人
	ヒトコロナウイルス HKU1	2024 年 10 月	1 人
その他の呼吸器疾患(喘息)	コクサッキーウイルス A2 型	2024 年 10 月	1 人
その他の疾患(痙攣重積)	ライノウイルス	2024 年 11 月	1 人

4 人の患者から 4 種類のウイルス 4 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型、ヒトコロナウイルス HKU1、コクサッキーウイルス A2 型、ライノウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和6年12月解析分)

1. 週報対象(第49週～第52週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		4,925	136.81		11	ヘルパンギーナ		2	0.09	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		313	8.68		12	流行性耳下腺炎		4	0.16	
3	RSウイルス感染症		25	1.09		13	急性出血性結膜炎		2	0.26	
4	咽頭結膜熱		32	1.39		14	流行性角結膜炎		27	3.39	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		160	6.96		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		483	21.01		16	無菌性髄膜炎		-	-	
7	水痘		39	1.69		17	マイコプラズマ肺炎		132	22.01	
8	手足口病		25	1.09		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		9	0.39		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	
10	突発性発しん		19	0.81							

2. 月報対象(12月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		23	2.56
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		4	0.44
4	淋菌感染症		7	0.78
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和6年12月分)

第49週～第52週(12月2日～12月29日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	11	107	1,126	15,843
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	2
	16 細菌性赤痢	-	-	4	74
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	28	163	3,742
	18 腸チフス	-	-	1	42
	19 パラチフス	-	-	1	7
四類	20 E型肝炎	-	2	45	526
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	3	8	137
	23 エキノコックス症	-	-	3	17
	24 エムボックス	-	-	-	19
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	-	4
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	11
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	6
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	-	4
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	4
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	2	3	120
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	2
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	10
	40 つつが虫病	1	4	139	349
	41 デング熱	-	2	12	232
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	1	-	505
	46 日本脳炎	-	-	-	9
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	1	5
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	7
	55 マラリア	-	-	-	45
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	25
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	1	23	158	2,419
	62 レプトスピラ症	-	-	2	53
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	1	4	37	514
	65 ウイルス性肝炎	-	1	19	226
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	10	200	2,277
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	2	5	47
	68 急性脳炎	5	12	101	609
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	27
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	2	4	11	169
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	19	114	1,888
	72 後天性免疫不全症候群	1	8	73	991
	73 ジアルジア症	-	2	5	42
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	68	644
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	8	66
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	7	17	327	2,530
	77 水痘(入院例に限る。)	1	3	38	483
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	7	161	1,152	14,663
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	13	189
	81 破傷風	-	-	6	85
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	8	6	121
	84 百日咳	12	44	705	4,054
	85 風しん	-	-	1	7
	86 麻しん	-	-	2	45
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	6